

ISSN0286-312X

## 専修大学社会科学研究所月報

No. 569

2010. 11. 20

## キリスト教原理主義とアメリカ政治

堀江 洋文

## 目 次

1. キリスト教原理主義の特質と史的展開	2
2. 現実主義政治・外交と宗教的理想主義 —ブッシュ政権の功罪—	10
3. キリスト教右翼と司法	20
4. 今後の展望 —キリスト教右翼と茶会運動—	36
編集後記	38

波乱に満ちた2期8年間に及ぶブッシュ政権時代も終わり、キリスト教右翼あるいは宗教右翼と呼ばれるキリスト教原理主義勢力も、これまで享受してきたような自分たちの原理原則に対する政権の後ろ盾を失ったように見える。<sup>1)</sup> バラク・オバマ大統領のキリスト教信仰については各種議論があるが、オバマ政権が発足以来前政権と比べ明らかに左旋回し、リベラル派の

<sup>1)</sup> 「宗教右翼」という言葉は、本稿で扱う運動がキリスト教原理主義者を中心とした運動であることから、やや広義に過ぎる印象が残る。「プロ・ファミリー」の呼称も使われることがあるが、この運動が掲げる主張はその他にも多数あり逆に狭すぎる概念である。そこで、本稿では「キリスト教右翼」で統一することとする。また、キリスト教右翼と言った場合、それがリーダー層を指すのか、末端の草の根活動家を指すのか、一般大衆でキリスト教右翼思想に賛同する者に言及しているのか明確化する必要があるが、多くの事例はその全体を指しており、特定する場合には文脈で判断されたい。これらの問題については、Mark J. Rozell & Clyde Wilcox, eds., *God at Grassroots: The Christian Right in the 1994 Elections* (Lanham, MD, 1995) を参照。